

参加者、
石川、北島、小泉、小海、佐藤、
鈴木、田中、鳥飼、中島、古川、
安田、山岡、遊佐、横関、吉野、
ゲスト参加、
山下(7月より復帰予定です)

BMW RS Club

かわらばん

5/10-11

May 10~11, '03

魚づくしに大満足をした
土肥の民宿「川尻」での一夜
かわらばんー中島邦雄；挿絵-小倉玲子

この季節にしては心持ち風が冷たいながら、晴天の小田原厚木道路をご機嫌に飛ばしていると、この日から始まった交通安全週間でポリ公も気合が入っているのか、朝から三台もの白バイとご対面しました。

道の処々には薄紫色の桐の花が奇麗に咲き、とても気持ちの良い心躍るような朝でした。ちなみに今回の「東名海老名SA」からの出発は六台で、残りのメンバーとは現地の土肥で合流することになっています。

箱根ターン・パイクを駆け上り、横山大観が此処からの富士山を、こよなく愛したという大観山に着くと、あいにく雲がかかりその雄姿は見えませんでしたが、凜とした空気が周囲にみなぎり肌寒いような感じでした。

我がクラブの定番コース伊豆スカイラインを冷川ICまでひとつ飛び。中伊豆町を通り六台のバイクが狩野川沿いの田舎道を抜けて天城湯ヶ島町に入りました。「伊豆の踊り子」もあの大学生もこの辺りを歩いたことでしょうか。我々の前を軽自動車のカブチーノが変な走り方をしていて、前を走る四台は抜き去りましたが、道が広がった三差路で急に合図も無しに右折をし、後続の古川さんが寄せられた形で転倒し、車だけが滑って橋の欄干に激突し、バイクを大破してしまいました。すぐ後を鈴木さんが走り全てを目撃していて、現場検証の際に証人となりました。無理やりに病院へ行ってもらいましたが、その間に風邪を引いて車で参加予定の石川さんを携帯で呼ぶと、沼津の「饅よし」で食事を済ませ、比較的近くに居るではありませんか。その足で古川さんの運ばれた病院へ行ってもらいました。幸いにも体には異常が無いからと、なんと古川さんはその車で我々と一緒に民宿へやってきました。

其処から更に20キロほど走ると潮の香りがしてきて、今日の宿泊地の土肥に着きました。未だ四時を回った頃でしたが既に何台かの仲間が集まり、すぐに近くの国民宿舎へ行って温泉に入り、これから始まる宴会に備えました。宴会開始は当初の予定を六時半に繰り下げましたが、それでもそれ迄は間に合わせ「魚で飲む酒は入る処が違うよ」とかなんとか言いながら、大きなビンの焼酎やビールが、塩辛や乾いたおかずで次々と空きました。

メンバーの吉野さんは、以前にこの漁師の処へ「押しかけ弟子入り」をしていたそうで、まさに仲のような扱いで、我々もそのおこぼれ頂戴で大変なもてなしを受けました。見事な伊勢エビの刺し身とボイルが各自に一匹ずつ付き、この親父さんが釣ってきた見事なメジナと大きなアオリイカ、更に大きいサザエに法螺貝、アジなどの船盛が三舟も並びました。間もなく仕事帰りに飛んで来たという、今回の幹事の横関、元会員の山下両氏が駆けつけ、これで16名の参加者全員が揃いました。彼等は腹ペコだと食べ始めたものの、とても食い切れる量ではありません。日本酒は三升、焼酎は大きなボトルが一本、ビールは宿の大瓶24本に持ち込んだ大きな缶ビールが空いて、誰かさんが「一年分を飲んだよ」とかなんとか言っていました。そうは言っても今頃はまだ飲んでいることでしょう。外を見ると澄んだ空に幾らかボンヤリとした月と、その下には大きな星が輝いていました。明日の第二日曜日は「母の日」ですが「母の日や大きな星がやや下位に」という中村草田男の“母郷行”に有る句を思い出しました。

飲み疲れた者から順に寝床に入りました。夜中の二時頃に私が目を覚ますと回りは物凄いイビキで、まるで動物園にでも居るかのようです。確かに石川さんが居た筈なのに姿が見えず、翌朝見ると玄関のあがりがまちに寝て居るではありませんか。話を聞くと余りのイビキに寝つけずに、廊下へ移っても駄目で、ついには布団ごと玄関に移って寝たと言う涙ぐましい話を聞かされました。ちなみにその部屋には鈴木、遊佐、中島の三人が寝てました。

当初の天気予報では二日間は晴れの筈なのに、急に帰る
日の後半から雨という御託宣です。予定を30分速め
て九時の出発とし、朝風呂を浴び早目の朝飯を
囲みました。昨夜の残りの刺し身が
奇麗に揃えられ、アジの干物に
伊勢エビの味噌汁が何とも
飲み過ぎの胃袋に嬉しく、
もう一泊して朝から飲みたく
なるような気分になりました。
名残が尽きぬ僕に宿の親父さんに見送
られて土肥を離れ、薄曇りの中をバイクを
連ねて、きつい上りの「仁科峠」に向かいました。



対向車も無い峠道を登って行くと、周囲に自分たちの
バイクのエンジン音がこだまして、何か幽玄の世
界に分け入ったかのような妙な感覚でした。
やがて雲が厚くなってきたと思う間
もなく、ヘルメットにボツンと
雨が当たり始めました。
残念ながら予報が
的中と言う次第です。
昨日の事故現場の近くを
通り抜け、冷川から伊豆スカイ
ラインに入り、時おり降る中を箱根
新道回りで下山すると、雨も上がってきました。

会の方から持ち込んだ酒代とは別に、あれ程までに飲み食いした「民宿川尻」の勘定は、吉野さんの顔もあってか、何と一人頭ジャスト¥10,000円で、他所の場所なら二匹の伊勢エビ代にも足りないのではないかと思われました。こんな場所ならば毎月のツーリングにでもしたいような、そんな思いにさせられたのは、決して私だけではなかったことでしょう。企画の横関さん、そして回りでは番頭さんと頼りにしていた吉野さん。本当に有り難うございました。久々に素晴らしい一泊ツーリングでした。参加者全員になり代わりご努力を心より感謝申し上げます。

なお前回のツーリングの際にゲスト参加の佐藤さんが入会され、今回は晴れて正会員でご参加下さいました。次回は安田さんの企画で日光方面へ行くそうです。梅雨が近づきますが皆さんで晴天を祈っていて下さいね。